

ジェネリック医薬品を知っていますか？

監修 / 日本ジェネリック研究会

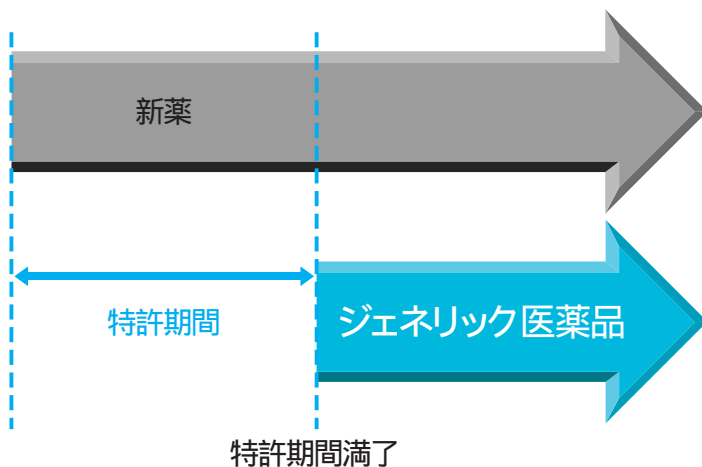
医療費が増え続ける中で注目されている、安価なジェネリック医薬品。平成18年4月から、利用促進に向けて処方せんの様式が変更され、利用しやすくなりました。ジェネリック医薬品を積極的に使用して、薬代の負担を軽くしませんか？



ジェネリック医薬品とは？

新薬の特許がきれたあとに同じ成分・効果で発売される後発品

医療機関で処方される薬には、「新薬(先発薬)」と「ジェネリック医薬品(後発医薬品)」に大別できます。新薬は製薬会社が多額の研究開発費を投じてつくるため、申請後20～25年間は特許に守られ、開発メーカーが独占的に製造・販売できます。一方のジェネリック医薬品は、新薬の特許が切れたあとに、他のメーカーが製造・販売するもので、成分や有効性は新薬と同等ですが、開発コストが少なく済むため、価格を安くすることができます。



どのくらい安い？

平均すると新薬の約半額

ジェネリック医薬品の価格は新薬の2～7割、平均すると約半額程度に抑えられます。とくに高脂血症や高血圧などの慢性疾患では長期間薬を服用することになるので、新薬からジェネリック医薬品に切り替えると、薬代の負担がぐっと軽くなります。

日本ジェネリック研究会のホームページでは、現在服用している薬と同じ効果のジェネリック医薬品があるかどうか検索することができます。

日本ジェネリック研究会ホームページアドレス

<http://www.ge-academy.org/>

新薬とジェネリック医薬品の比較

(1年間服用した場合)

高脂血症治療薬(成分名: プラバスタチンナトリウム10mg)

3割負担	新薬	14,240円
	ジェネリック医薬品A	7,670円
	ジェネリック医薬品B	5,480円

高血圧治療薬(成分名: マイレン酸エナラプリル5mg)

3割負担	新薬	9,860円
	ジェネリック医薬品A	5,480円
	ジェネリック医薬品B	2,190円

平成18年4月現在の薬価で計算。

実際は表の薬代のほかに技術料などが含まれます。

品質は？

新薬と同等の品質

ジェネリック医薬品は、新薬と同様の「薬事法による品質基準」をクリアしているだけでなく、「品質再評価()」による品質管理も行われています。厚生労働省の承認を得て製造・販売されており、新薬と同等の品質が確保されています。

品質再評価: 薬の溶け方や吸収が新薬と同じであることを確認するもの。

ジェネリック医薬品がより利用しやすく！

平成18年4月に処方せん様式が変更され、「後発医薬品への変更可」という欄が設けられました。この欄に医師の署名があれば、患者の同意を得たうえで、薬剤師が新薬と同等のジェネリック医薬品にかえることができます。

また、厚生労働省は、ジェネリック医薬品メーカーに対して、継続的な在庫の確保や全国的な販売体制の整備など、ジェネリック医薬品の安定供給を求める政策を同時実施しており、患者は今まで以上に安心してジェネリック医薬品を使うことができるようになりました。

処方せんの
「後発医薬品への変更可」欄に
医師の署名があれば、
ジェネリック医薬品に
変更できます

ジェネリック医薬品を使うには？

まずは医師に相談

医療機関で受診したときに、医師に「ジェネリック医薬品を使いたい」と伝えましょう。ただし、ジェネリック医薬品はすべての医薬品に対応しているわけではなく、また、病状によっては新薬が必要なこともありますので、医師とよく話し合しましょう。

